取扱説明書

HITACHI
Inspire the Next

家庭用バイオ式電気生ごみ処理機

BGD-300N形

軒下設置型・屋外用



このたびは家庭用バイオ式電気生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。

ごみパックン

安全上のご注意

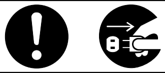
ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注記事項は

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例

	「警告や注意を促す」内容のものです。
	してはいけない「禁止」内容のものです。
	必ず実行していただく「指示」内容のものです。

⚠ 警　告

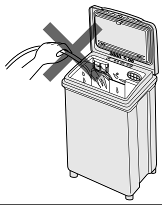
酒類やアルコール分を含むものは入れない。(酒かす・アルコール漬けの果実・薬草など)
多量の柑橘類(みかん・オレンジなど)の皮を入れない。
食用油・油脂類やそれらを含むものを多量に入れない

- 爆発や火災・引火、自然発火の恐れがあります。

絶対に分解したり修理・改造を行わない

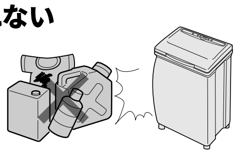
- 火災・感電・けがの原因になります。
- 修理は、販売店または日立の「ご相談窓口」にお問い合わせください。

本体各部に直接水をかけない
また、処理槽の内部は水洗いしない



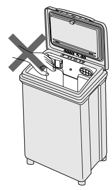
- 漏電や感電の原因になります。

電池類・石油類・灯油・ベンジンなど、引火・爆発するものは絶対に入れない



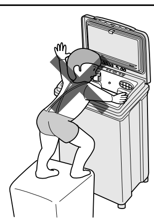
- 爆発や火災・引火の恐れがあります。

ふたを開けても、かくはん棒が回転を続ける場合は、直ちに使用を中止する



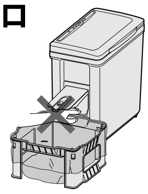
- 修理を依頼してください。けがの原因になります。

幼児に処理槽の中をのぞかせない
また、生ごみ処理機の近くに台を置かない



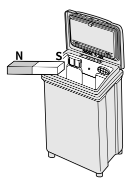
- 落ちてけがをすることがあります。

コンポストの自動取出し中は取出口の中に手などを入れない



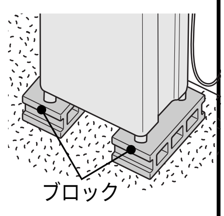
- けがの原因になります。

ふたを開けたとき、本体の上部に磁石を近づけない



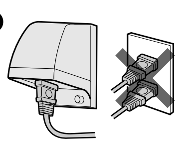
- 内部のふたスイッチが働き、かくはん棒が回転を始め、けがをすることがあります。

安定したところに水平に据え付ける。
土や芝生の上に置く場合は、ブロックを敷く



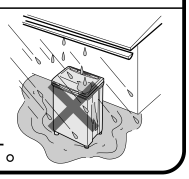
- 安定したところに据え付けないと転倒の恐れがあります。
- 感電・ショート・発火の原因になります。

据え付ける場合は、交流100Vの防雨形コンセントを使う



- コンセントに雨水がかかると漏電の原因になります。

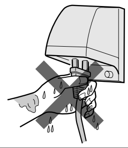
雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない



- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

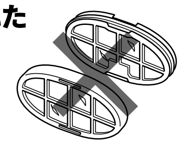
⚠ 警　告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



- 感電やけがをすることがあります。

脱臭フィルターのネットが破れた場合には使用しない

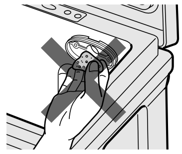


- 発煙・発火の原因になります。

処理槽の中に手を入れるときは、電源プラグを抜く

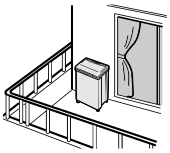
- けがをすることがあります。

脱臭フィルターを外したとき、吸込口に基材などを押し込まない



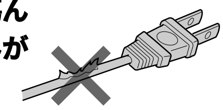
- 発煙・発火の原因になります。

ベランダに据え付ける場合は、本体を手すり側に据え付けない



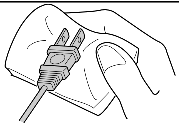
- 落下・転倒やお子様が踏み台にして転落する原因になります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない



- 感電・ショート・発火の原因になります。

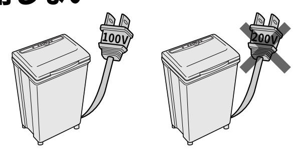
電源プラグは、刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく



- 火災の原因になります。

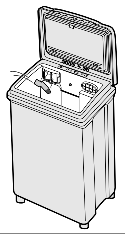
⚠ 注　意

交流100V以外では使用しない



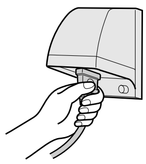
- 火災・感電の原因になることがあります。

火気の近くに設置しない
また、火のついたたばこなどを投入しない



- 本体の変形によるショート・発火の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに先端の電源プラグを持って引き抜く



- 感電やショートして発火の原因になることがあります。

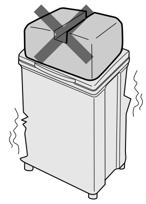
電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり、たばねたりしない
また、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりしない

- 電源コードが破損し、火災・感電の原因になることがあります。

長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜く

- 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になることがあります。

生ごみ処理機の上にのぼったり、重いものを載せたりしない



- 変形・破損・転倒によりけがをする恐れがあります。

風通しのよい屋外に設置する

- 袋小路や、壁や塀で囲まれたコーナーなど風通しの悪い場所に据え付けるとにおいがこもる原因になります。
- 室内やシャッターの付いた車庫、物置の中など閉ざされた場所に設置しますとにおいがこもる原因になります。
- 排気の流れが悪くなり、処理が上手くできない原因になります。

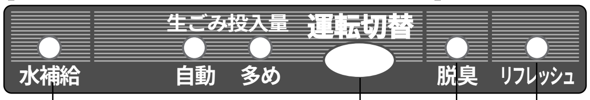
排気フィルターおよび脱臭フィルター(外フィルターと内フィルター)は確実に取り付ける

☞ 13、19

- 確実に取り付けなければ、コンポストが吸込口から本体内へ入り込み、故障の原因になります。

各部のなまえ

[運転表示パネル（処理槽側）]



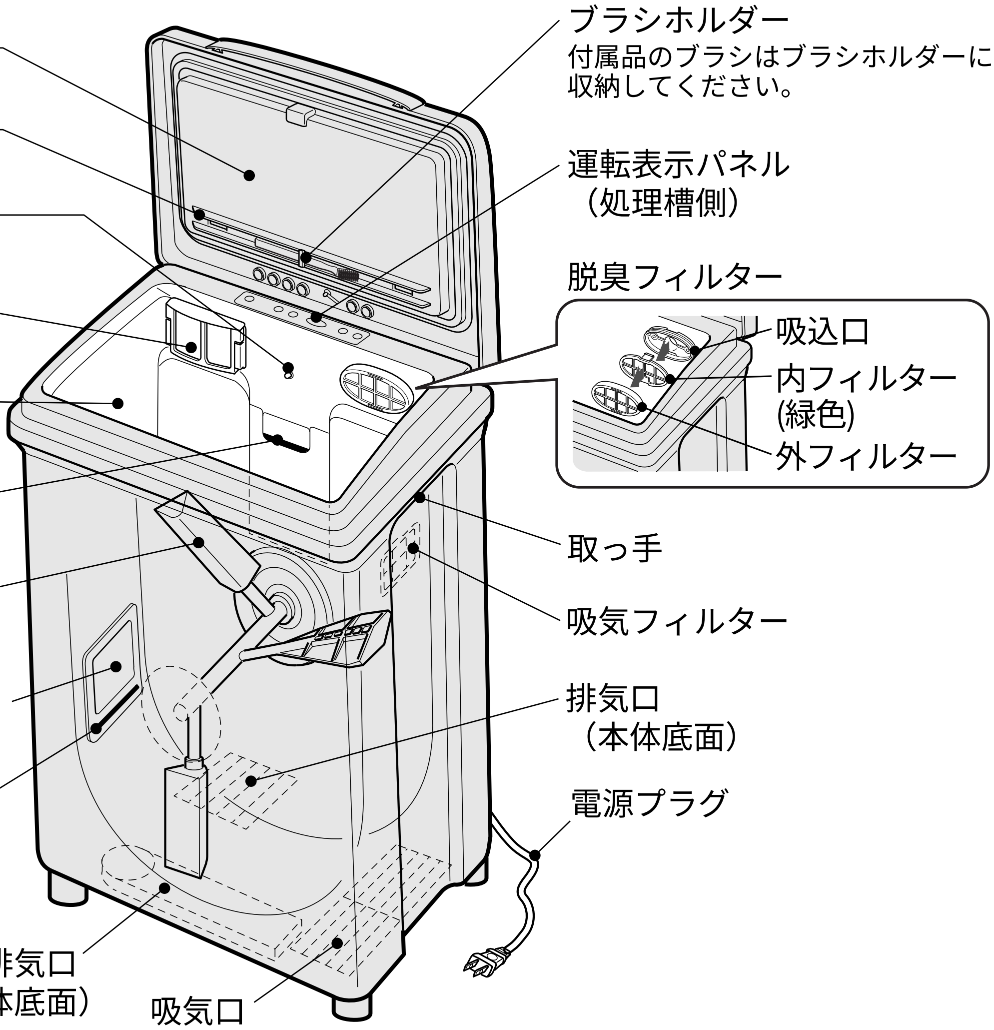
基材のリフレッシュ時期の目安を示します。☞15

脱臭運転の表示をおこないます。☞12

運転コースの表示を
おこないます。☞11

基材の乾燥状態の
目安を示します。☞11

生ごみ投入量に応じたコースの切り替えと
リフレッシュランプのクリアに使います。☞11

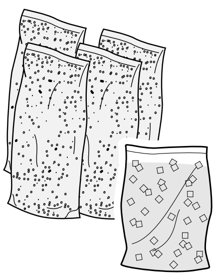


付　属　品（処理槽内に収納してあります）

- バイオ菌入り基材　4袋(1袋 約4.5L)
  (バイオフレーク)
- グリーンキューブ　1袋(約1L)

ご注意

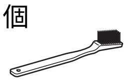
- 製品の輸送中に、袋がやぶれて基材がもれる場合がありますが支障ありません。そのままP7の「ご使用前の準備」にかかってください。



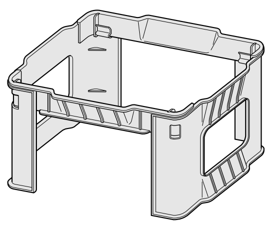
- スコップ1個
  計量カップを兼ねています。



- ブラシ1個

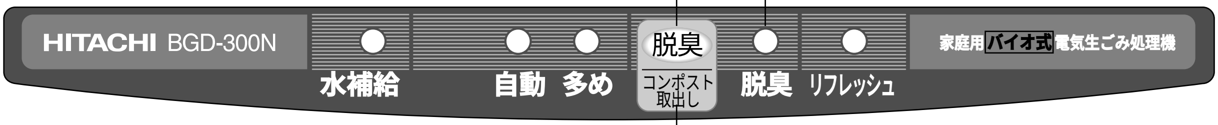


- コンポストスタンド1個
  組み立てて使用します。



においが気になるときに使用します。☞12

脱臭運転の表示をおこないます。



[運転表示パネル（ふた側）]

コンポスト(堆肥化した古い基材)を自動的に取出すときに使います。☞14〜15

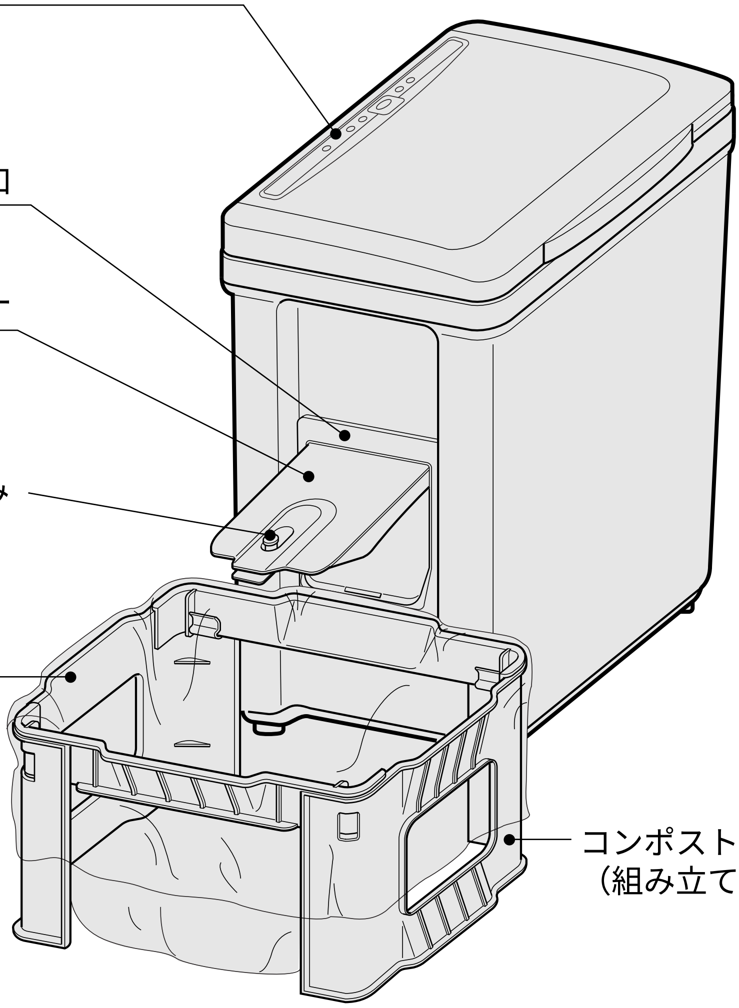
運転表示パネル（ふた側）

コンポスト取出口

取出口シャッター

ロックつまみ

ポリ袋 (市販品)
巾65cm×長さ80cm
(45L用)以上のものを
ご使用ください。



コンポストスタンド
（組み立てて使用します）

運　転　内　容

- ふたを開けた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、ブザー音が鳴り「自動」ランプが点灯して通電状態となります。
- 通電状態で、ふたを閉めると、4分間のかくはん運転をおこないます。以後、このかくはん運転は自動的に30分ごとに4分間繰り返します。
- ふたを閉めた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、ブザー音が鳴り、「自動」ランプが点灯し、かくはん運転を開始します。
- かくはん運転中にふたを開けると、かくはん運転が休止します。
- 外気温度に応じて、保温ヒータが働きバイオ処理を助けます。

据え付けのしかた

据え付け場所を選ぶ

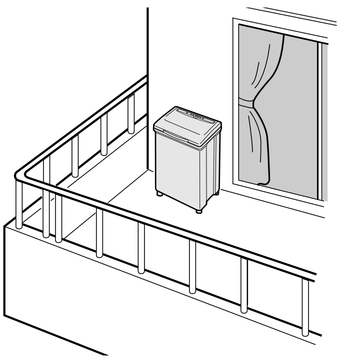
■風通しのよい屋外に設置してください。

ご注意

- 屋外でも袋小路や、壁や塀で囲まれたコーナーなど風通しの悪い場所に据え付けますとにおいがこもります。
- 室内やシャッターの付いた車庫、物置の中など閉ざされた場所に設置しますとにおいがこもります。

■ベランダに据え付ける場合は、壁側にしてください。

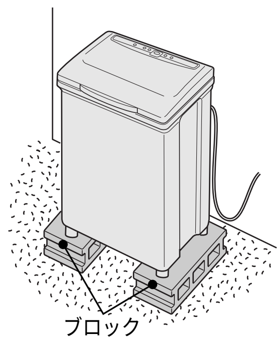
- 落下、転倒を防ぐためです。



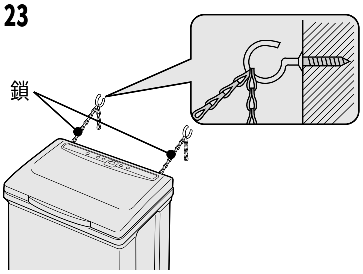
据え付ける

■安定したところに水平に据え付けてください。

■土や芝生の上に置く場合は、ブロックを敷いてください。



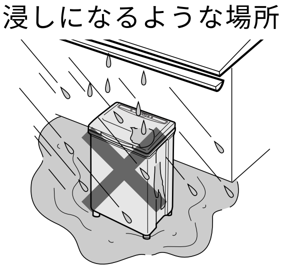
■強い風が吹きつける場所に据え付ける場合や、倒れる恐れがある場合は、鎖（2ヶ）で本体を壁に固定してください。
（別売部品）☞23



⚠警　告



雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない



- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

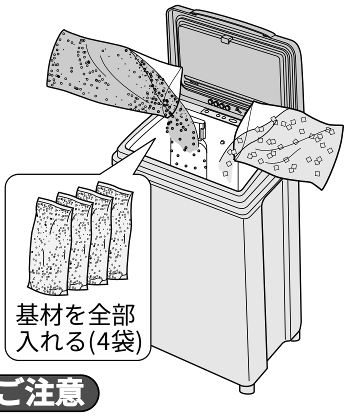
ご注意

- ポリ袋や段ボール箱などで本体をカバーしないでください。
  換気が阻害されてにおいの発生や、基材交換を早める原因になります。

ご使用前の準備

1 ふたを開け基材を入れる

基材とグリーンキューブのポリ袋を開封して、それぞれ全部入れます。どちらが先でもかまいません。

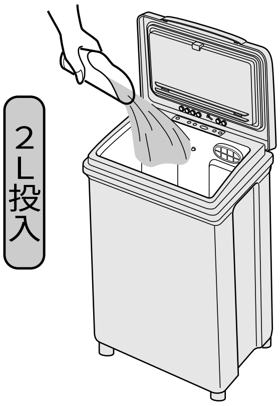


ご注意

- 排気、吸気フィルターや脱臭フィルターに振りかからないように入れてください。

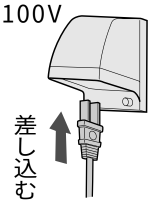
2 水を約2L入れる

付属のスコップ(8杯)または飲料水のペットボトルなどを利用して入れます。

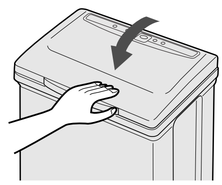


- 適当な湿気を与えるためです。

3 プラグを差し込みふたを閉める



- 通電状態であることを示す「自動」ランプが点灯します。



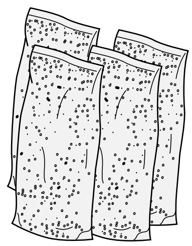
- ふたを閉めると自動的にかくはん運転がはじまります。

ご注意

- バイオ処理維持のため、電源プラグはコンセントに差し込んだままで常に運転しておいてください。
  旅行などでご使用にならない場合も、電源を入れたままで結構です。
  留守対応機能が働き、自動的に最小限の維持運転に切り替ります。

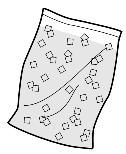
■基材(バイオフレーク)について

- 乾燥したおがくずをベースに活性炭、pH調整剤(いきいきミネラル)などを加えて加工したもので、微生物の育成に必要な「水分」「空気」「温度」などを適切に保つ微生物の住家です。また、バイオ処理で生じるにおいの元になるガス成分を吸着します。
- 出荷時に、基材の中に生ごみを分解するバイオ菌を予め混ぜてありますので、使用開始から分解処理がおこなわれます。
- 開封時に、黒い粒がよく混ざり合わず片寄っている場合がありますが、異常ではありません。そのままお使いください。



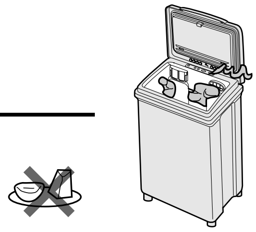
■グリーンキューブについて

- 天然パルプから造った、人畜無害の自然に優しい生分解性の発泡体です。基材(バイオフレーク)の中に投入したとき、微生物の快適な「すみ家」になるとともに、基材内の水分や空気の状態を微生物が働きやすい状態に保つなどのいろいろな働きをします。これにより基材が長持ちし、リフレッシュ期間を延ばすことができます。



使用上のご注意

1 分別して入れる



■投入できるものと、投入できないものがありますので、
あらかじめ必ず分別してください。☞ 9

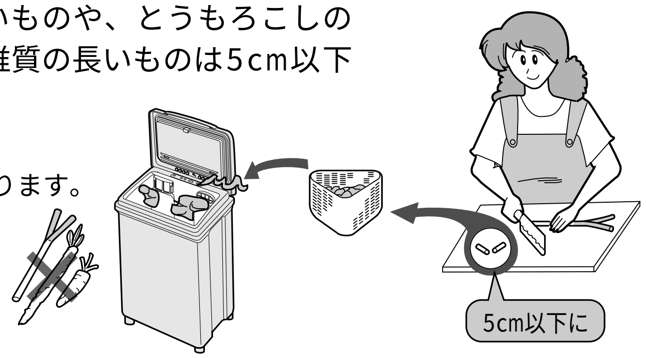
2 硬くて大きいものや長いものは小さくする

■ごぼう、とうもろこしのしんなど硬くて大きいものや、とうもろこしの皮、たけのこの皮、長ねぎの白根など丈夫な繊維質の長いものは5cm以下に小さくしてください。

- 大きいとバイオ処理に時間がかかります。
- かくはん棒の回転を妨げてかくはん異常の原因になります。

■おにぎりのようなだんご状のものは、ほぐして入れてください。

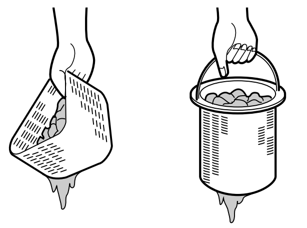
- においが強くなる原因になります。



3 水切りをおこなう

■生ごみを投入するときは、水切りをしてください。

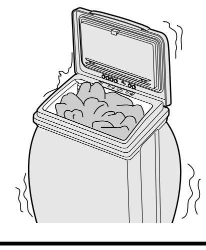
- 基材の水分が多くなると、微生物が住みにくくなるので、においが強くなる原因になります。
また、基材が固まりやすく基材交換時期を早める原因になります。



4 入れ過ぎない〔連続処理の場合最大2.2kg(約4.4L)/日〕

■1日に投入できる生ごみの量は、2.2kg以下です。
(週に1日のみ3.0kgまで投入できます)

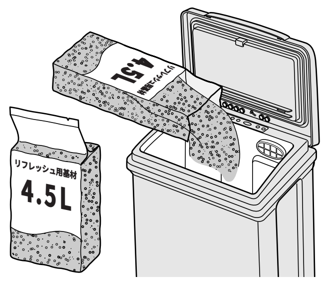
- 生ごみ用三角コーナーに約2杯強を目安にしてください。
- 毎日連続して2.2kgを超えて投入すると処理が遅くなり、においが強くなる原因になります。
- 1日に2.2kg以内であれば、2～3回に分けて投入してもかまいません。



5 基材のリフレッシュ(基材の部分交換)はお早めに

■基材は長期間使用すると土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなりますので、基材のリフレッシュ(基材の部分交換)をしてください。☞ 15

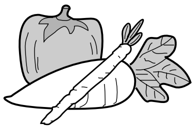
基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類・量により異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日2.2kgの処理で約1～3ヶ月、1日0.7kgの処理で約10～12ヶ月ほどが目安です。



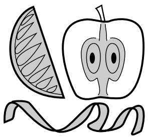
投入できるもの・投入できないもの

投入できるもの(人間が食べられるものであれば処理可能です)

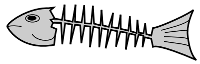
- 野菜くず



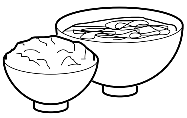
- 果物やとうもろこしの皮やしん



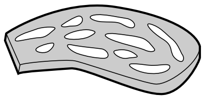
- 魚の皮や骨



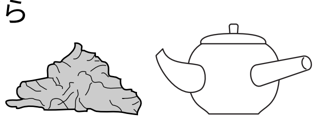
- ごはん・めん類



- 肉類

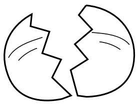


- 茶がら



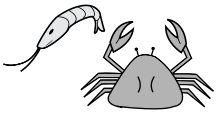
少量しか投入できないもの(1日の投入量の目安)

- 卵の殻



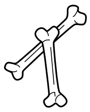
5個以下
(約50g)

- カニ、エビの殻



カニ：約1杯
エビ：約12匹
(約300g)

- 鶏の骨



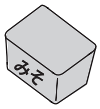
手羽先相当
約5本以下
(約70g)

- 枝豆、バナナの皮など繊維の多いもの



一人前相当
(約50g)

- みそや納豆など粘性のある発酵食品



おたま1杯分
(約100g)

- ジャム・蜂蜜など糖分の多い粘性のある食品

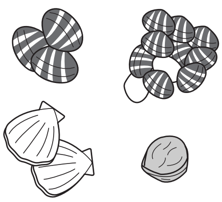


おたま1杯分
(約100g)

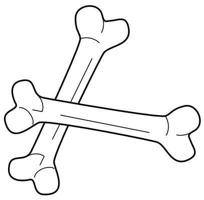
※連続して投入しますと運転を妨げたり、異常音発生の原因になります。

投入できないもの

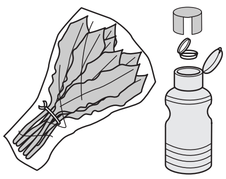
故障の原因になるもの



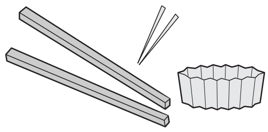
硬い貝殻や梅干しの種・クルミなど



大きな骨
(牛・豚・大きな魚など)

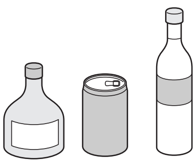


食材の包装材など
(輪ゴム・針金・中ぶた・ビニール袋など)



アルミホイルやつまようじ・割り箸など

爆発・引火の恐れがあるもの

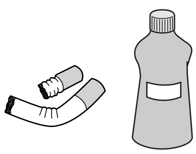


酒類
(果実酒・薬用酒を含む)

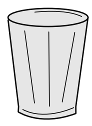


アルコール分を含む食品
調味料(みりん)や石油類など

バイオ菌の生育を妨げるもの



たばこ・洗剤・石けん・化粧品・シャンプー・化学薬品など



ガラス・陶磁器・金属類・プラスチックなどの化学合成物質

ご注意

- **牛乳、ジュース、しょうゆ、ドレッシング、味噌汁、油などは直接投入しないでください。**
  水分が多くなり、処理がべたつく原因になります。
- **大きくて硬い果物(パイナップルの皮など)、梅干し、桃などの種は投入しないでください。**
  かくはん棒の回転が妨げられ、大きな音がします。
- **揚げ物などをした後に残る油脂類、およびそれを固めたものは投入しないでください。**
  油などの酸化熱による自然発火の恐れがあります。
- **凍らせた食品は、解凍してから投入してください。**
  かくはん運転の妨げの原因になります。

使いかた

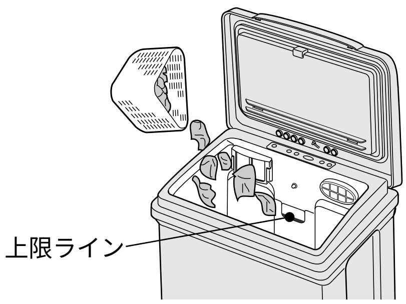
1 ふたを開ける



ご注意

- ふたを開けるとき、無理な力を加えると外れるようになっています。外れたときは、もと通りにセットしてください。☞17

2 生ごみを投入する



ご注意

- 基材が上限ライン付近まで増えてきた場合は、スコップで取り出して基材量の調節をしてください。（下記のご注意参照）

3 ふたを閉めて運転する

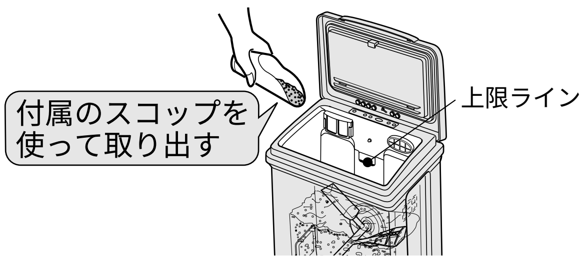


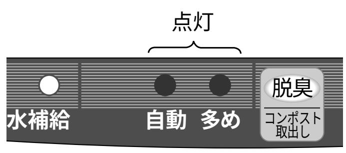
ご注意

- ふたが確実に閉まっていないと運転をおこないません。
- また、「自動」「多め」のランプが同時に2つ点灯しているときは運転できません。(下記のご注意参照)

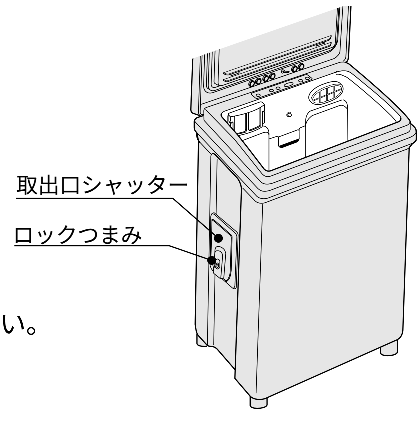
ご注意

- 使いはじめて1週間前後、においが強くなる場合がありますが、そのままご使用ください。基材の発酵臭ですので次第におさまります。
- 使用中に基材が増えてくる場合があります。上限ラインを超えないようにスコップで取出し調節してください。





- 「自動」「多め」のランプが2つ同時に点灯しているときは、運転できません。左側面の取出口シャッターが正しくロックされていないことを示しております。ロックつまみを押し下げて正しくロックし2つのランプを消してからご使用ください。

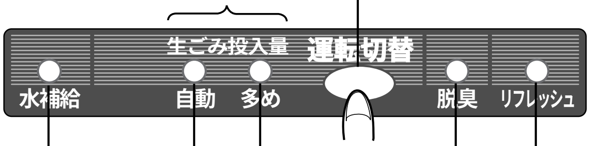


- 「ギュー」または「ゴトン」という音がでることがありますが、生ごみが処理槽の内壁にこすれたり、ぶつかったりして出る音ですので、異常ではありません。
- 虫を駆除する場合は、ピレスロイド系のスプレー殺虫剤をご使用ください。

■運転コースの使いかた

通常は「自動」コースをご使用ください。生ごみの投入量と基材の状態に合わせて基材を常に最良の状態に保つように自動運転します。
ただし、生ごみの種類や量、水切りの状態によって、基材の水分が著しく多くなったり、パサパサに乾燥するなど基材状態が悪くなる場合がありますので、マニュアル操作の運転コースも選べるようにしています。

同時に点灯しているときは、運転できません。
取出口シャッターを正しくロックしてください。
ロックすると消灯します。



コースの選択は 運転切替 ボタンでおこないます。
運転切替 ボタンを1回押すごとに、
「多め」→「自動」と切り替ります。

※脱臭運転中は運転切替ができません。
「自動」運転になります。

「リフレッシュ」…使用中はこのランプが点滅していないかチェックし、基材の交換時期かどうかを確認してください。☞15

「脱臭」…脱臭運転の表示をおこないます。

「多め」…一度に大量の生ごみを投入する場合や「リフレッシュ」ランプが点灯する前の早い時期に、基材の水分と粘り、固まりが多くなって「リフレッシュ」が必要になる場合などに使用します。
一日の投入量は1.5〜2.2kgが目安です。

「自動」…生ごみの投入量と基材の状態に合わせて自動運転します。
通常はこのコースを使用します。

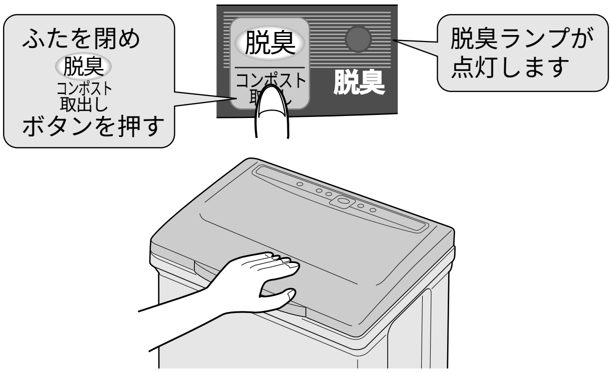
※脱臭運転中は、この「自動」コースのみの運転となります。

「水補給」…基材の水分が著しく不足していることを示します。点滅したときは、右図のように水分を補給してください。
同時に排気フィルターや吸気フィルターを付属のブラシで掃除してください。
ふたを開閉すると、ランプが消えます。



脱臭運転（においが気になるとき）

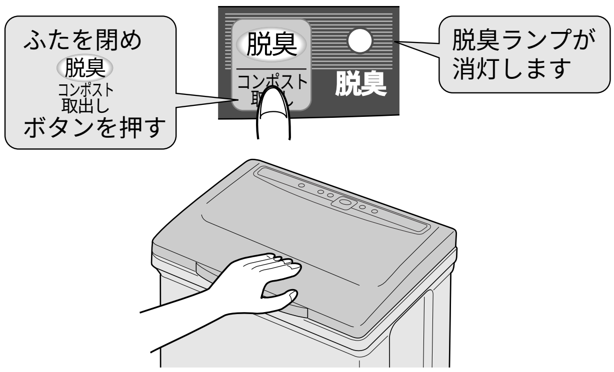
1 脱臭運転を開始する場合 脱臭ボタンを押す



ご注意

- 脱臭運転を開始して、効果が出るまでに約1時間くらいかかります。
- 脱臭運転中は、本体底面の脱臭排気口から温風が出ますので、少し熱く感じることがありますが、異常ではありません。
- 脱臭運転を開始するときは、脱臭フィルターが目詰まりしていないか調べ、こまめに付属のブラシを用いて清掃してください。 ☞13

2 脱臭運転を停止する場合 脱臭ボタンを押す



ご注意

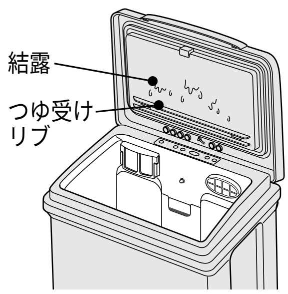
- 脱臭運転は、途中で運転停止の操作をしない限り3日間運転を継続したあと、自動停止します。

◇電気代節約のため、においが気にならなくなった場合は、脱臭運転を停止してください。

- **脱臭運転中は、自動的に「自動」運転コースになります。（従って、脱臭中は「多め」に切り替えられません。）脱臭運転が停止したときには、脱臭開始前の運転コースに戻ります。**

ご注意

- 脱臭運転は、処理槽から出る排気のにおいを取る働きをするもので、ふたを開けたときに感じる、処理槽内の基材や生ごみのにおいを取るものではありません。
- においの成分の種類や濃度によっては、脱臭運転してもにおいが完全に取れない場合があります。例えば、多量の魚介類や残飯などを投入したときの強いにおいは、取り切れない場合があります。
- 脱臭運転は3日間運転を継続したあと自動停止しますが、続けて脱臭運転をする場合は、生ごみの投入量を1日1.2kg以下にしてください。基材の水分が多くなって、基材のリフレッシュ時期を早めます。
- 脱臭運転を2回続けて(約1週間)おこなっても排気のにおいが軽減されない場合は、基材そのものが悪化していますので、基材のリフレッシュをおこなってください。 ☞15
- 脱臭運転中は、脱臭性能をあげるために処理槽の換気量を少なく絞っていますので、結露する場合がありますが、故障ではありません。特に温度が低くなると結露が多くなります。このとき、ふたをゆっくりと開けると水滴がつゆ受けリブで処理槽内に落ちるので、処理槽のふちがぬれるのを軽減できます。

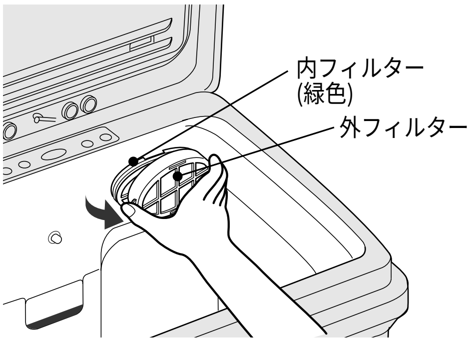


■ 脱臭フィルターのお手入れ

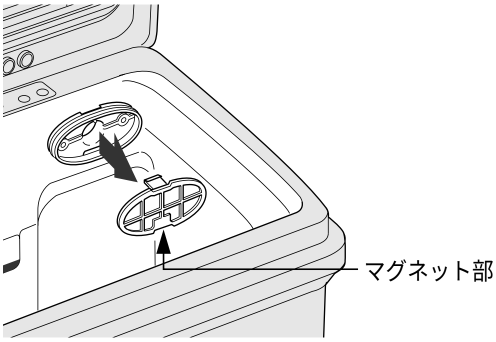
①外フィルターを矢印の方向に片側から取り外してください。
- 真っすぐ引っ張ると外しずらい場合があります。

②中の内フィルター(緑色)を矢印の方向に取り外してください

③外フィルター、内フィルターを付属のブラシで掃除します。
- 汚れのひどいときは水洗いをします。



④外フィルター、内フィルターを元通りにセットします。
- 内フィルターはマグネット部を下にしてセットします。
- フィルターが目詰まりしたり、外フィルター、内フィルターが正しくセットされませんと、脱臭運転できません。



- 脱臭フィルターは、外フィルター、内フィルターとも必ず装着してご使用ください。
内部の脱臭装置内に粉塵が入らないようにする重要な役目をしています。そのため、内フィルターが外れると保護装置が働いて脱臭運転が停止します。

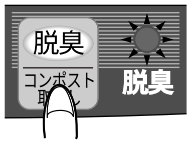
使いかた

- 脱臭中に、木のこげるようなにおいがする場合がありますが、故障ではありません。脱臭フィルターを通過した基材の微粉が脱臭ヒーターで過熱されたにおいです。

- 脱臭運転を開始するときは、基材がパサパサに乾いていないか調べ、乾燥している場合は、スコップで3〜5杯水を入れ湿らせてください。基材の微粉末が舞い上がって、脱臭フィルターの目詰まりや脱臭異常の原因になります。

■脱臭ランプが点滅したとき

- 脱臭ランプが点滅した場合、自動的に脱臭運転は停止します。
- 脱臭フィルターのお手入れをしてください。(上記のお手入れ参照)
- 脱臭フィルターが正しく入っているか確認してください。(上記のお手入れ参照)
- ふたを閉め、脱臭ボタンを押して脱臭運転を再開します。
- 上記処理をおこなってもランプが点滅する場合は、修理を依頼してください。



⚠警　告

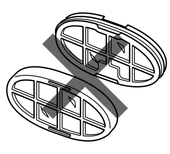
脱臭フィルターを外したとき、吸込口に基材などを押し込まない



- 発煙・発火の原因になります。

⚠警　告

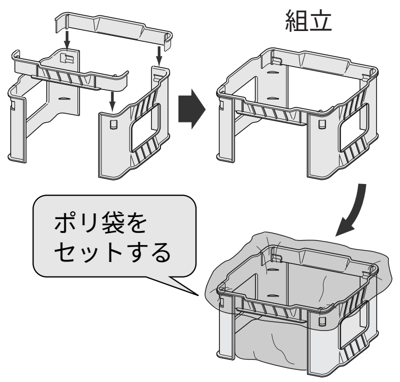
脱臭フィルターのネットが破れた場合には使用しない



- 発煙・発火の原因になります。

コンポストの自動取出し

1 コンポストスタンドを組立て、ポリ袋をセット



- ポリ袋は市販の巾65cm×長さ80cm(45L用)以上のものをご使用ください。

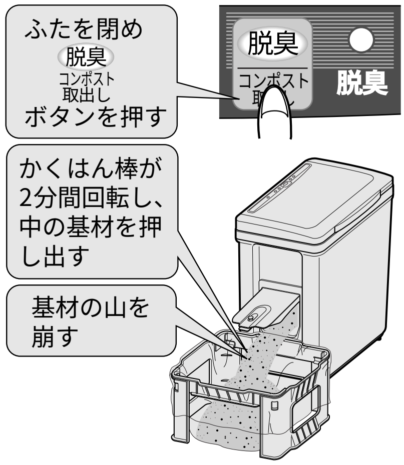
2 取出口のシャッターを開く



ロックつまみを引上げてロックを外し、シャッターが止まる位置まで開く

- シャッターのロックが外れると、表示パネルの「自動」「多め」の2つのランプが同時に点灯します。

3 コンポスト取出しボタンを押す



- 2分間のかくはん棒の回転中は、2つのランプが同時に点滅します。
- 2分後かくはん棒が停止するときブザーが8回鳴ります。

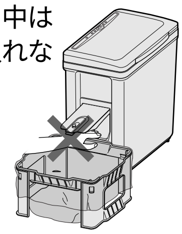
■自動取出し中に、取出口につもった基材の山をスコップで崩してください。
山につかえて基材がスムーズに排出できません。
また、ポリ袋から溢れて、床にこぼれる原因になります。



⚠ 警　告

コンポストの自動取出し中は取出口の中に手などを入れないでください。

- けがの原因になります。



■自動取出しを途中で止めたいときは
(1)ふたを開けます。閉じると残りの時間だけ運転します。
(2) 脱臭 コンポスト取出し ボタンを押します。ピッとブザーが鳴って止まります。
再び押すとピッとブザーが鳴って残りの時間だけ運転します。

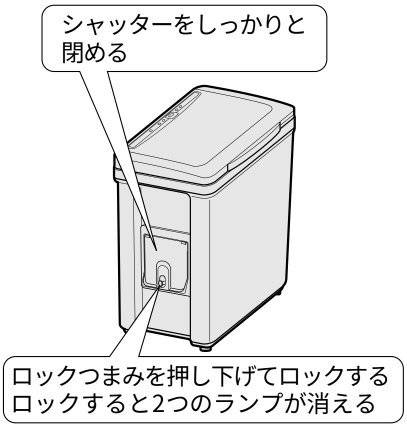
■古い基材は処理槽内の「基材取出し目安」まで取出します。
- 基材取出し目安まで1回の運転で、取出し切れない場合は、もう一度、取出し運転を繰返すか、付属のスコップで取出してください。
- 逆に取出し過ぎた場合はスコップで処理槽内に戻してください。



ご注意
- 基材の状態が水分過剰でベトベトしていたり、処理槽の内側に基材が固まり壁ができている場合など、基材の状態によっては自動取出し出来ない場合があります。このときは、付属のスコップを利用して取出してください。
- 取出口シャッターのロックを忘れて放置しますと、5分後から警報ブザーが約1時間鳴り続けます。
このときは、速やかにシャッターのロックをおこなってください。

リフレッシュ(基材の部分交換)

4 シャッターを閉じロックする



ご注意

- シャッターを正しくロックしないと運転できないばかりか、基材がもれて、床を汚す原因になります。

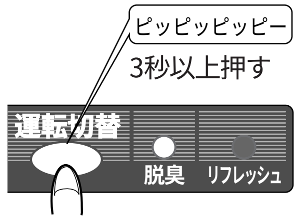
5 新しい基材を追加する



ご注意

- 2つのランプが消えているか、確かめてから投入してください。点灯しているときは、取出口シャッターが正しくロックされていないことを示します。

6 リフレッシュランプをクリアする



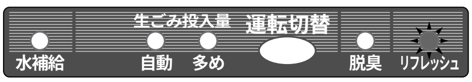
ご注意

- 運転切替ボタンを3秒以上押してください。(ピッピッピッピーとブザーが鳴り、リフレッシュランプが消えます。)

＊グリーンキューブの利用
- 別売り部品グリーンキューブ(BG-G5)をご利用になりますと、微生物の生活環境を改善し、基材のリフレッシュ時期を延ばすことができますので、ぜひご利用ください。
もちろん、基材のみ「リフレッシュ」してもかまいません。

■「リフレッシュ」ランプの使いかた

リフレッシュランプは、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするランプです。



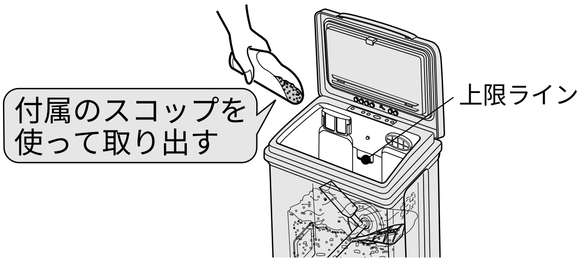
ランプが点滅したら
基材のリフレッシュ時期の目安を示します。
基材の状態を確認し、右の基材状態になっていたらリフレッシュをおこなってください。

基材の状態
1. 粒状の固まりができる。
2. 未処理の生ごみが目立つ。
3. 粘り気が多くなる。
4. においが強くなる。

ご注意

- リフレッシュランプは、あくまで、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするものです。
リフレッシュが必要かどうかは基材状態をチェックして判断してください。
- 基材のリフレッシュをおこなってから数日過ぎても基材の状態がよくならないときは、もう一度リフレッシュをおこなってください。それでも基材の状態がよくならないときは、基材全体を交換してください。
この場合、コンポスト自動取出しでは全部は取り切れませんので、残りは付属のスコップを利用して取り出してください。

基材のお手入れ

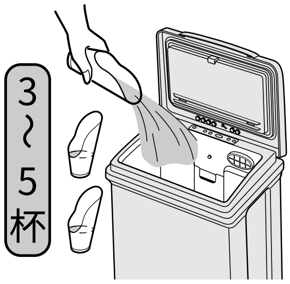


■基材量の調節

バイオ処理の過程で、基材の容積が増える場合があります。上限ラインを越えないようにスコップで取り出してください。

■基材の水分調節

毎日の投入量が少ない場合や、数日間生ごみの投入をおこなわなかった場合、排気フィルターが目詰まりするくらいに基材がパサパサに乾燥する場合があります。このときは、「水補給」ランプが点滅していなくても、排気フィルターの目詰まりを取り除くとともに、スコップで3〜5杯分の水を入れてください。☞11



■使用中の基材の変化とリフレッシュの必要性

基材は使用時間とともに、土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなります。このため気温や湿度などの環境条件や生ごみの種類・量によって時期は異なりますが、右記のような状態に変化します。

- 基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類、量によって異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日2.2kgの処理で約1〜3ヶ月、1日0.7kgの処理で約10〜12ヶ月が目安です。

基材の状態変化

1．粒状の固まりができる。

2．未処理の生ごみが目立つ。

3．粘り気が多くなる。

4．においが強くなる。

■古い基材の取り出し作業について

基材が固まっている場合は、スコップや棒状の用具などを利用し、取り出してください。作業はケガ防止のため手袋をご使用ください。また、基材は土や堆肥と同じですので、衛生上必ず手を洗ってください。

■基材の全量交換法

- 基材交換が遅れて、著しく悪い状態になってしまうと、基材のリフレッシュでは復旧できなくなってしまいます。このときは古い基材を全部取り出し、別売り基材4パックを投入して、P7「ご使用前の準備」と同一の作業をしてください。作業がしずらいときはふたを外して作業をすることもできます。☞17
- 別売りグリーンキューブ(BG-G5)を入れる場合は2袋(約1L)投入します。

取り出した基材の処置方法について

■有機肥料として再利用する場合

未分解の生ごみが基材に残っている状態で植物に与えますと、土壌中で植物に有害なガスの発生、植物必須成分である窒素の欠乏、植物に有害な病原菌の増殖などで、植物の発芽や生育が阻害される場合がありますので、正しくご利用ください。☞18

■有機肥料として利用しない場合

可燃ごみとして廃棄処分してください。

その他　お知らせ

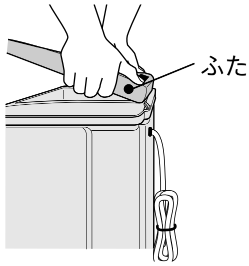
留守対応機能について

- 3日以上ふたを開閉しない場合は、自動的に留守対応機能が働き、保温ヒータとかくはん運転を停止します。外気温が0°C未満のときは、6日以上となります。（そのとき運転コースを示すランプは点灯したままで換気ファンのみ回っています。）
- ふたを開閉することにより、通常の運転に戻ります。
- 再び使用を開始する場合は、通常通り生ごみを投入してください。

ふたの脱着のしかた

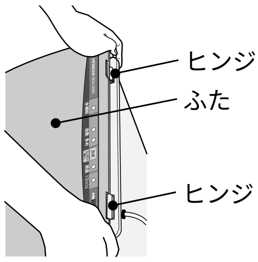
■ふたの外しかた

右図のようにふたの後部両脇に手をかけ、片側ずつ静かに持ち上げるとふたが外れます。

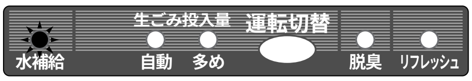
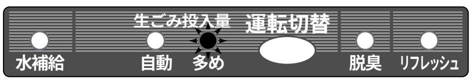
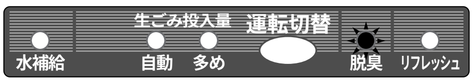
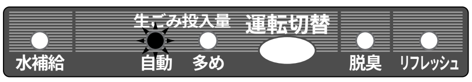
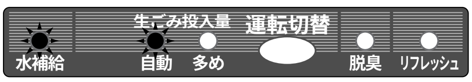


■外したふたのセットのしかた

処理槽の上面にふたを閉めた状態になるように置き、背面のヒンジが見えるようにしてください。そして、右図のように片側ずつ静かにパチッと音がしてヒンジがはまるまで上から押しつけます。そのあと、ふたが正常に開閉することを確かめてください。



ランプが点滅したときは

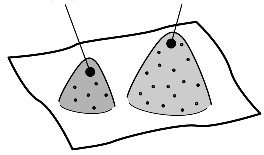
運転表示パネル	処置のしかた
「水補給」ランプが点滅 	基材の水分が著しく不足しています ⟵ 水分を補給してください。☞ 11
「多め」ランプが点滅 	かくはん異常です ⟵ 異物などの原因を取り除いてください。
「脱臭」ランプが点滅 	脱臭運転異常です(脱臭運転以外の運転は使用できます) ⟵ ●脱臭フィルターのお手入れをしてください。☞ 13 ●脱臭フィルターが正しく入っているか確認してください。☞ 13 ●上記処置をおこなってもランプが点滅する場合は、修理を依頼してください。
「自動」ランプが点滅 	保温ヒータ異常です ⟵ 使用を中止して修理を依頼してください。
「自動」「水補給」の2つのランプが点滅 	水分センサー異常です ⟵ 使用を中止して修理を依頼してください。

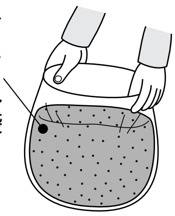
取り出した古い基材を有機肥料として利用する方法

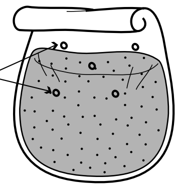
有機肥料として再利用する場合は次のようにしてください。

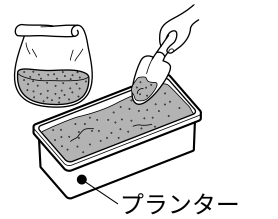
1 土と混ぜて利用する場合

取り出した古い基材と用土（黒土や赤土）を、おおよそ1：2の割合で混ぜ合わせて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いて、おおよそ20〜30日のあいだ、寝かせてください。







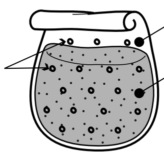


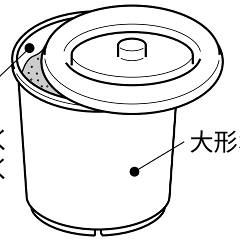
2 土と混ぜないで単独で利用する場合

厚めのポリ袋に入れ、空気が出入りできるように割りばしなどで数か所に小穴をあけて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。約20〜30日経過すると、2次発酵が進んでにおいが少なくなり、植物にやさしい有機肥料になります。

植物に与えるときは、土に対して有機肥料が重量比で10〜20%の割合になるように、混ぜ合わせてご利用ください。

■大きめのポリバケツに入れ、空気が出入りできるようにふたを軽く開けた状態で、放置する方法もあります。このときも乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。





3 約1.5ヶ月以上使用した基材を交換した場合の利用

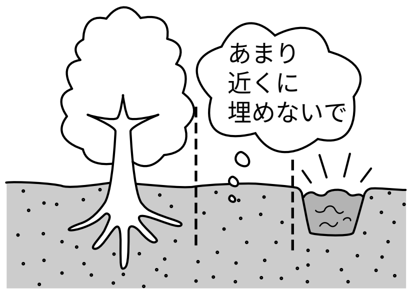
この場合は、処理槽内で生ごみの発酵分解が進んでおりますので、放置する時間は約10日前後の短い時間で、植物に与えても問題ありません。

ご注意

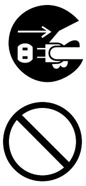
- 古い基材の大きい固まりは砕いてください。固まりを砕いたとき、中から野菜のブロックなど未処理の生ごみがでてきたときは、生ごみ処理機に再投入して処理をしてください。
  土と混ぜないで単独で保存する場合には、固まりを砕く作業は特に重要です。固まりはそのまま乾いてしまい、堆肥として利用しにくくなります。
- グリーンビーズの粒が残っていても、そのまま肥料として利用してもかまいません。
  土の中で微生物に分解されて、水と炭酸ガスとなって徐々に消滅します。

4 直接庭などに埋める場合

植物の根付近を避けて埋めてください。
根ぐされなどで植物が枯れる恐れがあります。



お手入れ



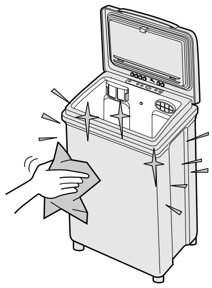
警告

処理槽の中に手を入れるときは、電源プラグを抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない。
- 感電やけがをすることがあります。

本体各部に直接水をかけない。また、処理槽の内部は水洗いしない。
- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

本体のお手入れ

■本体の汚れは、水または中性洗剤を含ませた柔らかい布でふき取ってください。



ご注意

- 乾いた布やブラシ、たわしなどでこすったり、クレンザー、ワックスなどで磨いたりしないでください。光沢をなくし、変色する原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

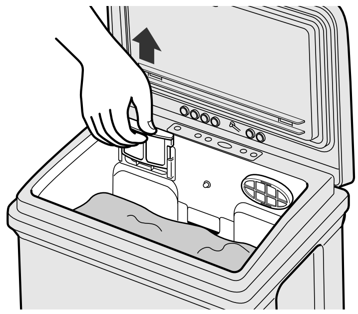
フィルターのお手入れ

■フィルターが粉状のほこりや基材で目詰まりしている場合
- フィルターが目詰まりすると、湿気やガス成分の排気能力が低下し、においが強くなる原因になります。

排気フィルター

①排気フィルターを矢印のように上にスライドさせて取り外してください。
②排気フィルターを掃除します。
- 付属のブラシなどで落とすか、汚れのひどいときは水洗いをします。

③元通りにセットします。



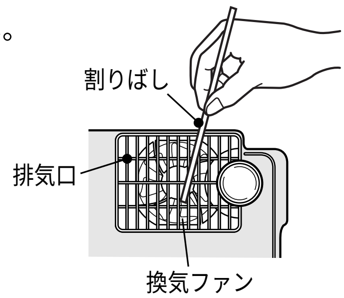
吸気フィルター

①本体に取り付けたまま付属のブラシなどで落としてください。

脱臭フィルター ☞13

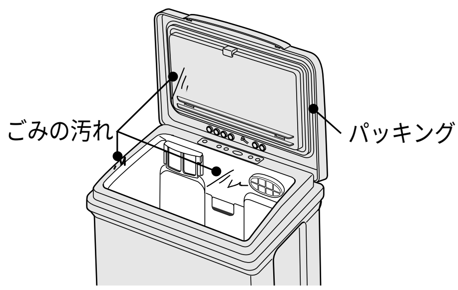
ご注意

- 金属などの硬いブラシは、フィルターを傷めますので使用しないでください。
- 毎日の生ごみ投入量が少ない場合、処理槽内の基材が乾燥しすぎて微粉が舞う場合があります。この場合は、水分を与えてください。☞16
- 基材が乾燥した状態で使用し続けますと、微粉化した基材が排気フィルターを通過し、本体内部の換気ファン部分にたまり、回転を妨げる場合があります。本体底部の左奥にある排気口に手を近付けて風が出ているか確認してみてください。風が感じられない場合は、排気口より割りばしなどを差し込み、換気ファン部にたまった基材を取り除いてください。



投入口付近のお手入れ

■ふたのパッキング面や投入口の付近についたごみや汚れをふき取ります。
- 雨水の侵入防止や虫が寄りつかないようにするためです。



故障かなと思ったら

修理を依頼される前に　次の点をもう一度お調べください

症　状	調べるところ	直しかた
電源プラグをコンセントに差し込んでもかくはん運転しない	●電源プラグはきちんと差し込まれていますか。 ●ふたはきちんと閉まっていますか。 ●取出口シャッターはロックしていますか。 （「自動」「多め」の2つのランプが点灯していませんか。）	●電源プラグをしっかり差し込みます。 ●ふたをきちんと閉めます。 ●取出口シャッターのロックをしてください。正しくロックすると、2つのランプが消えます。
「多め」ランプが点滅している	●ふたを開けるとブザーがなりませんか。	●ブザーが鳴っているときは、保護装置が働いています。☞17
「水補給」ランプが点滅している	●基材の水分が不足していませんか。	●水分を補給してください。☞16
「脱臭」ランプが点滅している	●脱臭フィルターが目詰まりしていませんか。 ●脱臭フィルターの内フィルターが正しく入っていますか。	●脱臭フィルターのお手入れをしてください。☞13 ●内フィルターを正しく入れてください。☞13
音が出る	●処理槽内に大きな生ごみや硬い生ごみが入っていませんか。	●取り除いてください。 ●「ブーン」という音は、モーターや本体の底にある換気ファンの音で異常ではありません。 ●生ごみを入れると処理槽の内壁にこすれて音が出ることがありますが、異常ではありません。
においが強い	●使い始めて1週間前後くらいですか。 ●生ごみの投入が最大処理量を超えていませんか。 ●生ごみが付着していませんか。 ●ごはん、魚、肉などの割合が多くありませんか。 ●基材の交換時期ではありませんか。 ●風通しの悪い場所に据え付けていませんか。	●バイオ処理が活発になると、においはおさまりますのでそのままご使用ください。 ●生ごみの投入を2～3日やめてください。 ●生ごみを取り除き、汁などをきれいにふき取ってください。 ●でんぷん、たんぱく質に片寄るとにおいが強くなる場合がありますので避けてください。 ●基材を交換してください。 ●風通しのよい場所に据え付けてください。 ■脱臭運転をしてください。
ふたを開けると、湯気が出たり、ふたの裏側に水滴が付着している	●排気フィルターが目詰りしていませんか。 ●脱臭運転中ですか。	●フィルターのお手入れをしてください。☞19 ●処理槽より湯気が出るのは、微生物の活動が活発なときに発生する分解熱によるもので、故障ではありません。 ●脱臭運転中は結露します。故障ではありません。
「運転切替」ボタンを押しても「リフレッシュ」ランプが消えない	●押している時間が短かすぎませんか。 ●「多め」ランプが点滅していませんか。	●3秒以上押してください。☞15 （ピッピッピッピーとブザーが鳴ります。） ●保護装置が働いているので、原因を取り除いてから、「運転切替」ボタンを押してください。☞17
こげたにおいがする	●脱臭運転中ですか。	●異常ではありません。☞12
本体底面があたたかい	●脱臭運転中ですか。	●異常ではありません。☞12

●上記以外の異常がある場合は、使用を中止して修理を依頼してください。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保　証　期　間

お買い上げの日から1年です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この生ごみ処理機の補修用性能部品を製造打ち切り後6年間保有しています。

補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」☞22 にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

20ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	家庭用バイオ式電気生ごみ処理機
形　　式	BGD-300N
お買い上げ日	年　　月　　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金のしくみ

技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれてます。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。

＋

出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検

★長年ご使用の生ごみ処理機の点検を

ご使用の際、このような症状はありませんか？

- 電源プラグをコンセントに入れても時々運転しないことがある。
- コードを折り曲げると、通電したり、しなかったりする。
- 運転中、異常な音がする。
- 本体ケースが変形していたり、異常に熱い。
- 焦げた“ におい ”がする。
- 本体に触るとビリビリ電気を感じる。
- その他、異常・故障があるとき。

ご使用中止

このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）（続き）

日立家電品についてのご相談や修理はお買上げの販売店へ

なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は

TEL　0120-3121-68
FAX　0120-3121-87

(受付時間) 365日／9:00～19:00

商品情報やお取り扱いについてのご相談は

TEL　0120-3121-11
FAX　0120-3121-34

(受付時間) 9:00～17:30 (月～土)、9:00～17:00 (日・祝日)
年末年始は休ませていただきます。
携帯電話、PHSからもご利用できます。

- お客様が弊社にお電話でご連絡いただいた場合には、正確にご回答するために、通話内容を記録(録音など)させていただくことがあります。
- ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。

仕様

形名	BGD-300N
電源	AC100V　50/60Hz共用
定格消費電力	脱臭運転時 最大 280W（通常運転時 最大 135W）
外形寸法	幅446 × 奥行360 × 高さ621mm
質量	本体　12.5kg
最大処理量	2.2kg/1日（週1日3.0kg）
据付場所周囲温度	−20℃～40℃

一般家庭用以外でご使用になるとき

食堂や寮、レストランなどでご使用になり、大量の生ごみを投入したり、一日の使用時間が一般家庭に比べて極端に長い場合には、短時間で部品の交換が必要になることがあります。
お買い上げの販売店にご相談のうえ、定期的な点検を受けてお使いになることをお勧めします。

- **このようなご使用は、保証期間の対象外となります。**

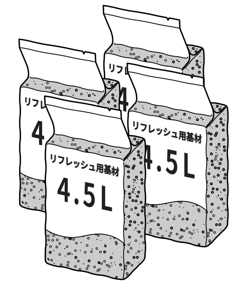
別売り部品

日立の家電品取扱店でお求めください。

■基材(バイオフレーク)セット(BG-C15)
バイオ菌入り基材 4パック入り(1パック 約4.5L)

当社指定の基材以外をご使用になった場合は、
生ごみ処理機の性能、品質など保証できません
のでご留意ください。

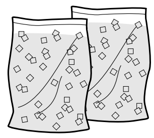
- 子供の手が届かない場所・直射日光の当たらない場所に保存してください。



希望小売価格 2,079円(税抜 1,980円)

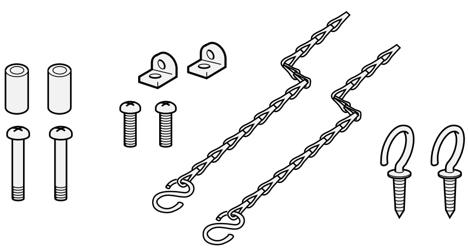
■グリーンキューブ(BG-G5)
グリーンキューブ2袋(1袋 約0.5L)

- 子供の手が届かない場所に保存してください。



希望小売価格 683円(税抜 650円)

■鎖(BG-K2)



希望小売価格 1,575円(税抜 1,500円)

■脱臭剤(BG-S1)
活性炭・pH調整剤入り脱臭剤3袋入り(1袋 145g)

- サービスパーツとしてご用意してありますので、もよりの販売店にご相談ください。
(部品番号BGD-120 010)



希望小売価格 1,260円(税抜 1,200円)

価格は、2006年12月現在の消費税率を基に総額表示を行ってます。

このマークは、特定の化学物質(鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB(ポリブロモビフェニル)・PBDE(ポリブロモジフェニルエーテル))の含有率が基準値以下であることを示しています。
(規定の除外項目を除く)
JIS C 0950

詳しい環境情報は、当社のホームページでご覧いただけます。 http://www.hitachi-ap.co.jp/company/environment/kankyo/

日立アプライアンス株式会社

〒105-8410　東京都港区西新橋2-15-12
電話（03)3502-2111